

令和5年度 指定管理施設に係る事業報告概要

施設名	千代田区立図書館 (千代田図書館、日比谷図書文化館、 四番町図書館、昌平まちかど図書館、 神田まちかど図書館)	所在地	【千代田】千代田区九段南1-2-1 【日比谷】千代田区日比谷公園1-4 【四番町】千代田区三番町14-7 【昌平まちかど】千代田区外神田3-4-7 【神田まちかど】千代田区神田司町2-16
-----	--	-----	--

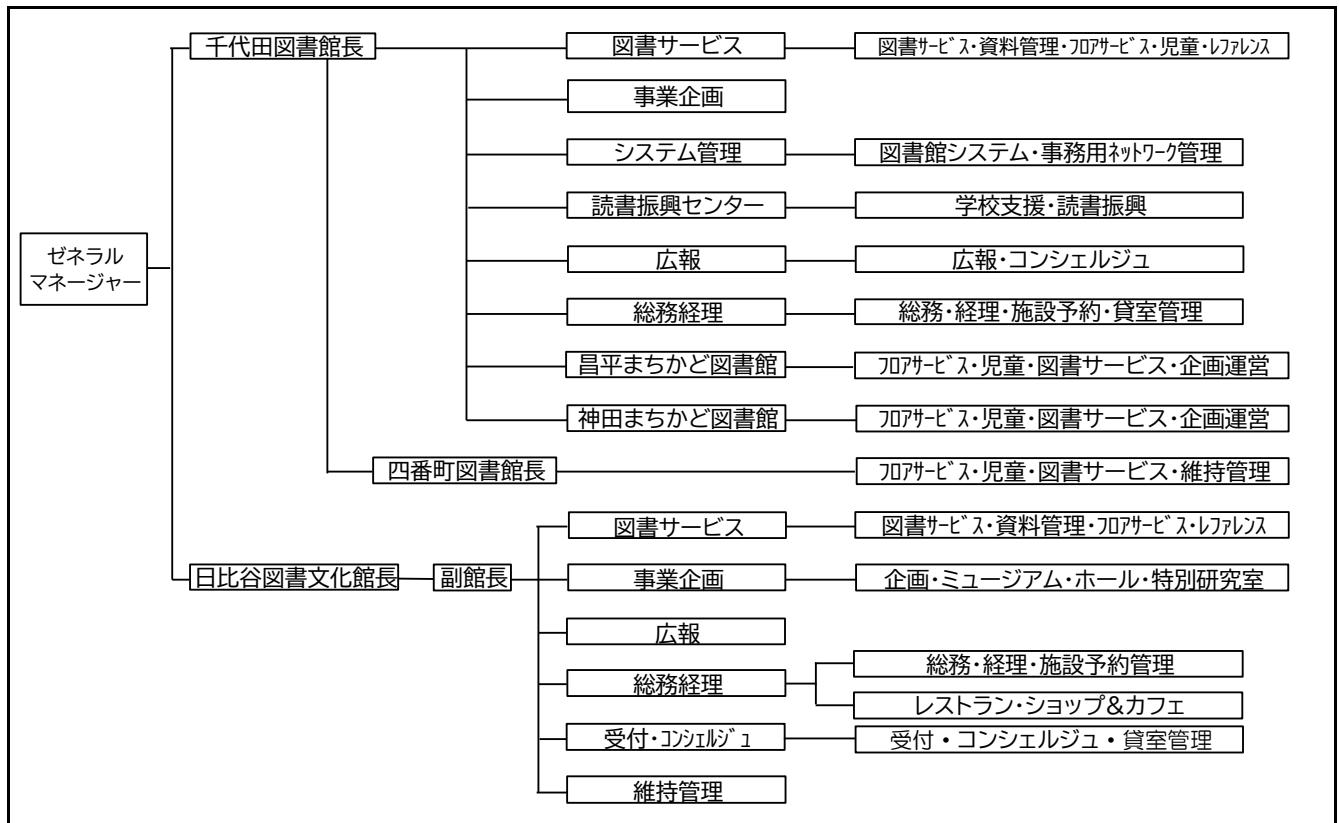
1 指定管理者の概要

名 称	千代田ルネッサンスグループ	代 表 者	[代表団体] ㈱小学館集英社プロダクション 代表取締役 都築 伸一郎 [構成団体] ㈱ヴィアックス 代表取締役 西門 直 ㈱図書館流通センター 代表取締役 谷一 文子 カトリック・パブリシティ・サービス㈱ 代表取締役 千 大輔 ㈱シェアード・ビジョン 代表取締役 小出 元一 大星ビル管理㈱ 代表取締役 寺島 剛紀
所在地	千代田区神田神保町2-30		
指定期間	令和4年4月1日～令和9年3月31日	報告期間	令和5年4月1日～令和6年3月31日

2 管理施設の概要

施設の目的	区立図書館の伝統と新しい行政に取り組む千代田区の特色を生かし、文化情報資源の総合センターとしての役割を担い、基本的な図書館サービスの拡充や区民の生涯学習に資する。
管 理 業 務 の 内 容	(1)図書館の利用に関する業務 (2)図書館の事業の実施に関する業務 (3)その他、館の運営に関し必要と認める業務

3 管理体制の状況



4 事業実績等

(1) 来館者数

	千代田図書館	日比谷図書文化館	四番町図書館	昌平まちかど図書館	神田まちかど図書館
令和5年度	394,278人	521,501人	116,609人	66,593人	100,609人
令和4年度	302,006人	450,469人	120,542人	59,832人	89,506人
令和3年度	212,741人	286,050人	116,174人	46,535人	69,058人

(2) 図書館業務(令和5年度)

施設名	登録者数	蔵書数	貸出数(団体貸出を含む)	レファレンス受付件数	データベース利用件数
千代田図書館	19,929人	218,743点	234,270点	4,411件	3,206件
日比谷図書文化館	21,514人	233,997点	140,076点	2,014件	1,671件
四番町図書館	5,731人	96,349点	215,939点	212件	0件
昌平まちかど図書館	2,307人	30,169点	61,109点	-	-
神田まちかど図書館	3,709人	28,626点	131,289点		

5 収支の状況

収 入		支 出	
指定管理料(図書館事業運営)	815,283,041円	人件費	540,819,926円
指定管理料(学校図書館等司書派遣)	61,353,000円	資料費	83,463,514円
研修室、会議室、ホール利用料	32,929,678円	システム運営費	2,317,666円
レストラン、ショップ&カフェ販売料等	65,903,598円	広報費	11,846,349円
日比谷カレッジ受講料	3,561,000円	一般運営費	37,603,512円
特別研究席利用料、日比谷ラボラトリー売上	1,410,200円	維持管理費	172,397,346円
特別展入場料	1,225,300円	一般管理費	20,370,370円
コピーサービス利用料、共催費	2,282,450円	事業費	154,233,336円
合計(①)	983,948,267円	合計(②)	1,023,052,019円
収支差額(①-②)	-39,103,752円		

6 指定管理者による自己評価

サービス提供に関して	収支に関して
来館者数、新規登録者数は、コロナ禍からの回復傾向が継続しています。回復速度が遅かった千代田も、来館者数40万人には届かなかったものの、5館の中で前年度比で最も高い回復率でした。四番町の来館者数は前年度比96.7%でしたが、仮施設での運営ということを勘案すれば問題となる結果ではないと考えています。 また、令和4年度から図書館公式YouTubeの配信を開始しましたが、令和5年度は配信回数を増やし、図書館利用につなげる努力をしました。 日比谷図書文化館では、「関東大震災100年『首都東京の復興ものがたりー未来へ繋ぐ100年の記憶ー』」「石川直樹:ASCENT OF 14-14座へ」の2つの特別展を開催し、区の教育委員会(文化財)主催の前者は28,651人の入場者数となりました。関連講座も盛況で、アンケート調査では特別展、特別展関連講座ともに高い満足度をいただく結果となりました。 レストラン、ショップ&カフェの来客数は、前年度に比べ1万人以上増えましたが、コロナ禍前の令和元年度比では、まだ72%程度の回復です。飲食材料や光熱費の高騰を考えると、依然厳しい状況にあります。	【収入】 コロナ禍が明けたことによって、研修室、会議室、ホールの利用料は伸びたものの、コロナ禍後の経済活動の変化や生活の行動変化により、予算に対する実績は、レストラン7割強、日比谷カレッジ等の講座6割、特別研究席4割、特別展示売上3割強、コピーサービス7割強にとどまりました。なお、光熱費高騰の影響による指定管理料の増額変更がありました。 【支出】 人件費、資料費は概ね予算どおりに、運営費も予算内に抑えられました。資料費では、四番町図書館と両まちかど図書館の資料の新規購入や汚破損等による買換えを優先しました。また、コロナ禍後もWeb図書館の需要が続いており、千代田図書館の資料費の一部をデジタルコンテンツの充実に振り向けました。 一方、主に事業費に関しては物価高騰により支出負担が大きく、コロナの5類移行によって損失費用補填がなくなったこともあり、結果的に収支差額はマイナスとなりました。

7 区による評価・業務改善要求

来館者数、資料貸出数ともに回復傾向にあり、利用者満足度の調査結果を見ても、仮施設で運営している四番町図書館を除けば各館とも95%を超える高い評価を得ていることは、指定管理者による安定的な運営の賜物と評価できる。

指定管理者提案事業として開始した図書館公式YouTubeほかSNSを活用した広報発信や、さらなる訴求力のある企画やイベントの実施により来館者数増をめざすとともに、引き続き満足度の高いサービスの提供を期待する。

8 今後の指定管理に区が期待すること

令和6年度に策定予定の「第4次千代田区子ども読書活動推進計画」を踏まえ、子どもも大人も読書を楽しみ親しめるような事業展開を期待している。また、時代の潮流として図書サービスのDX化についても、利用者の利便性向上につながる手段の一つとして、積極的に推進していただきたい。

加えて、令和9年度の新四番町図書館の開館に向けては、円滑に開設できるよう、今後も区との緊密な連携に努めてほしい。